

◆ニコニコ箱 酒井基次君（お誕生日おめでとう）  
鈴木一郎君（木製品展入賞） 北村実雄君（商工会議所二号議員）

◆幹事報告

①350地区年次大会の案内が参りました。多数の出席をお願い致します。

★場所 帯広市民会館  
★日時 9月11日（16.00）～9月13日（12.20）  
★出席義務者 会長 幹事

②368地区年次大会の案内が来ております。

③福島県原町R.C.よりチャーターの案内が来ております。

◆スピーチ 酪農及び乳製品について 門田 豊君

「出雲風土記」の中に、大国主命が牛を使う術が巧でこれを部下多数の農民にその法を伝えたとする。これで見ると神代時代に農耕用として牛が使役されたことを知る。36代孝徳天皇の御代に、宋の人福常が我が国に帰化し始めて搾乳の法を伝え、乳長の職が授けられた。之が我が国牛乳業の開祖で、以来代々朝儀として用いられた。その為畜産業は益々盛んになり、禁廷でも牛肉を召し上がられたのである。

ところが40代天武天皇は詔を下して、牛馬の肉を喰うことを禁じられた。之は天皇が深く仏教に帰依せられた為、殺生を戒められたからである。此の思想は長く続き、戦国時代に至つて益々酪農はすい微して行つた。徳川時代には農本政策がとられ、乳牛を買うことは認められなかつた。それで殺生禁断、肉食禁止は日本全国民の常織となり、僧侶は牛や馬を喰と四つ足に生れ変るとか、四つ足の子が生れるとか言つて因果の思想を説き、肉を喰う事は勿論、牛乳等を飲むことさえ忌み嫌つたのである。然し牛乳は当時食品としては姿を消したが、医薬として医者の方に尊重され、当時肺を病む者は持薬として牛乳や「ソ」「酪」を用いた。

明治維新後、外国から乳牛飼養の技術等が伝わり、内務省は明治8年に下総に、北海道では明治39年に月寒に、種畜場が開かれた。本格的に乳製品が作られ出したのは大正時代からである。当初は加糖煉乳が主な乳品で、育児用として主に消費された。最近では育児用は殆んどが粉ミルクに移行している。この育児用粉乳とは各成分を母乳に近い様に研究されたものである。従来市乳一台の値段は銭湯の料金と大体同じ位であつた。それが今では相当に開きが出ている。採算上止むを得ず行つた処置である。要するに諸物価との比較に於いて、著しく安い価格に置かれていた理である。

◆出席報告 会員数 30名 出席 22名 他ク出席 3名 計 25名（83.4%）  
次回（8月26日）のスピーチ 塚田会員 山内会員

次回例会日 9月2日



The Weekly Report of Hakodate North R. C.

このマークを真に光らせよう



神山春景

深瀬会員画

通算 第11号  
1964-8-26  
函館北ロータリークラブ

第11回例会

例会場 明治生命館  
例会日 毎週水曜日  
12.30～13.30

◆斉 唱 ♪ 奉仕の理想 ♪  
◆司 会 新 会長  
◆ビ ジ タ ー 石黒清三君（滝川） 小畑清一君（森） 函館東12名 函館11名  
◆会 長 挨拶

- ①毎回多数のヒジターで、本日は特に25名の出席を頂き誠に有難うございます。
- ②当クラブ宛に始めてガバナーズ・レターが参りました。あとで回覧致します。
- ③伊部バスターガバナーと富田特別代表のお話では、9月10迄には認証状が頂けるだろうとのことです。又ガバナーと地区大会委員長からも、大会迄には間に合うと思うので選挙人委任状を送るとの書面が参りました。帯広には多数御出席下さい。
- ④認証状が来れば、予定されている入会者の推薦書を出して頂くことになります。

◆幹事報告

- ①地区研究会の旅費を差上げますが、財政難の折柄東ク同様二等旅費としました。
- ②個人の経歴書未提出の方がまだ数名おります。至急お出し下さい。

◆ニコニコ箱 成田勇司君（商工会議所二号議員） 門田豊君（前回のスピーチがお上手で会長推薦） 新善次君（前回出席カードを自宅に持ち帰る。自発的投入）

◆出席報告 会員数 30名 出席 23名 他ク出席 4名 計 27名（90%）

◆スピーチ 「石炭の斜陽化から今日に至る経過について」 塚田次郎君

石炭鉱業は朝鮮事変の終り頃から急に斜陽化したが、これは世界的エネルギー革命と言われる、固体燃料から液体燃料へ、更に気体燃料へと消費構造が変革した事による。この為石炭各社の経営は苦しくなり、政府は昭和30年に「石炭鉱業合理化臨時処置法」を国会に出し、続いて「重油ボイラー設置規制法」が成立、石炭の合理化と、シェア確保の両面から救援の手を差し伸べた。然し重油攻勢が激しく、次第に地方の中小企業を浸すに至った。そこで「石炭鉱業審議会」は、石炭が重油に対抗して生きぬく為には、炭価を大幅に引下げる以外になしとし、炭価1200円引下げを通産大臣に勧告した。これは34年度の石炭価格を基準に、38年度迄に逐次1200円引下げる案で、その根きよは、38年度の重油価格をカロリー当り86銭と想定し、石炭を同78銭見当まで下げ、この8銭の差があれば、石炭重油のメリットをみても充分優位に立ち得ると言うことであつた。石炭鉱業はこれを至上命題として、合理化によるコスト引下げに力をかけた。然し石炭の生産コストは労務賃金の比重が極めて高く、合理化には当然余剰人員の整理にしわ寄せがゆき、従つて強大な労組との正面衝突を招き、三井三池の様な大争議が頻発したのである。か様に石炭鉱業は苦闘しつつ炭価引下げを実行せんとしたが、予期せぬ鉄道運賃や生産資材の値上がりがあつて、一向にコストは下らない。一方重油価格も競走の激化により価格が下落し、36年度には既にカロリー当り70銭を割るに至り、38年度の石炭カロリー当り78銭の想定価格を大きく下廻る迄になつた。

石炭は国産唯一のエネルギー源として貴重な資源であるが、石油に完敗し、放置すれば日本産業のエネルギーは凡て石油に頼らざるを得なくなる。石油は殆んど輸入に依存しており国際収支の面で大きな問題であり、又一方石炭鉱業の崩落は、失業問題、産炭地の疲弊など、大きな社会問題として政治問題化する。そこで政府は36年の末に最後案とも言うべき石炭対策の大綱を決定した。所謂「スクラップ アンド ビルド」の整理案で、石炭需要5500万屯を確保しつつ、非能率山を閉山し、高能率山を造成して集中生産する事により、生産性を高めコストの引下げを図る事を主眼とする6項目に亘るもので、これに基づき「石炭鉱業調査団」が編成された。例の有沢調査団である。この答申（42年度迄に1200万屯の山を閉山し、労務者も12万人台に減ずる）は石炭鉱業に対する国の意志を明かにし、これなくしては石炭鉱業の存立は有り得ないとの強い認識を労使双方に与え、整理は比較的平穏のうちに進捗したのである。残つたビルド山の機械化合理化も急速に進み、生産能率は39年度は45屯に達するものとみられている。（労務者一人当りの月間生産量を生産能率と言う。三池争議当時は15屯）この整理によるアブタケアーの問題は大きいが、兎も角石炭鉱業は38年度を底として業績は上昇に転じ、急増する日本産業のエネルギー需要の増大に重要な役割を果たしつつ、斜陽化の汚名を返上して安定産業として見直される日も近いと信ずる。

次回例会日 9月9日

The Weekly Report of Hakodate North R.C.



第1回クラブアッセンブリー  
350地区 地区研究会

通算第12号  
1964-9-1  
函館北ロータリークラブ

8月9日岩見沢市民会館に於いて、1964-1965年350地区の地区研究会が開かれ、更に8月11日函館市内「館」にて第1回クラブアッセンブリーが行われました。（会報第9号参照）内容に重複する点が多いので、まとめて編集しました。尚遠藤、杉本、山内、飯田、深瀬、大田、船矢の各氏より原稿を載せ、或は御協力を賜りましたことを深く感謝致します。

クラブ会報委員一同

クラブアッセンブリー

◆会長挨拶

クラブアッセンブリーは年4回やるべしとされています。第1回は急いでやる方が良いのですが、8月9日の地区研究会の報告を兼ねて行うつもりであつたので今日にのびました。又この会合で、やがて行われるであろうチャーターナイトについて皆様の御意見をお伺いしたい。

◆幹事報告

アッセンブリーを次の順序で行います。

①地区研究会報告

- イ) クラブ会報 (水上)
- ロ) ロータリー情報 (杉本)
- ハ) 職業分類及会員選考 (山内)
- ニ) クラブサービス (遠藤)

②職業奉仕 (飯田神)

③国際奉仕 (深瀬)

④会計幹事報告 (大田)

⑥その他

出席者

新 遠藤 船矢 戸栗 森 今宮 野村 飯田(神) 飯田(貢)  
木屋 鈴木 西村 水上 門田 山内 大和 大田 杉本 神原

◆職業奉仕委員長報告

飯田神生君

第6回の例会の卓話で、職業奉仕活動について申上げた通り、仲々難しい仕事なので、残念乍ら未だ具体的な活動方針を、自信を以て発表する迄に至っておりません。もう少し時間を借していただきたいと思ひます。